28

大正十五年九月

國際間二重課稅及脫稅防止問題專門委員會第一回會議報告

外務省條約局第三課

本報告ハ專門家トシテ本會議ニ出席シタル財務官森賢吾氏ノ外務大臣ニ提出シタルモノナリ

本報告附屬書（佛文）ハ茲ニ添附セス

國際二重課稅及脫稅防止問題專門委員會會議報告

（一九二六年五月一七日乃至五月二二日）

目次

國際間二重課稅及脫稅防止問題專門家委員會第一回會議報告

本問題ハ其經過久シク其研究既ニ盡シ世外ニ定論アリ殊ニ七ケ國專門家委員會ノ報告（一九二五年二月七日聯盟第政部ヘ提出第二一二）ハ論理實驗ヲ調和シ工夫ヲ盡ネタル成案ナリ故ニ今回ノ委員會（大正十五年五月十七日開催）ニ於テハ此報告ヲ基礎トシテ國際的協定案ヲ作成スルニ於テ何等ノ困難ヲ見サルヘシト思ハシメタリ

然レトモ本委員會ニ於テハ前委員會ニ於ケル七ケ國ノ外更ニ新タニ六ケ國ヲ加ヘ而モ其内南米諸國ノ如ク所謂債務國ヲ代表スル者ハ其地位ニ照シ必シモ此報告全部ヲ滿足スル能ハス隨テ本委員會ハ勿ツ此報告ノ全部ニ亘リ一應主義元則上ノ議論ヲ交換スルノ要アリシハ免レス而モ講委員吉谷其本務多忙ナルヲ以テ一週間以上ノ會議ヲ許

サス欲ニ主義元則ノ訂盟ヲ終リタル後之ニ基キ一般ノ協定案ヲ作成シタルモ此案ノ意義決定ハ次ノ會議ニ譲リ以テ尚熟考ノ餘地ヲ與ヘタリ

然而各國ノ担任調査ハ合致ナルヲ以テ一般的協定案ヲ作成スルハ不可能ナリ畢ニ二國間ノ協定案トシ而モ其間國間ノ事情ニ基シテ取捨選擇ノ自由ヲ保留ノ條項ヲ存スル立案ニ過ツルノ外ナシ

本邦ニ取リテ本問題ニ最モ関係深キハ海運業ニシテ次ニ銀行會社ノ如立ナリ

前者ニ関シテハ苟モ海運業ニ従事スル船舶ハ何レモ協定ヲ享受スル趨勢ナルカ故ニ國籍ナル協定ヲ結クルコト容易ナル可シ然レトモ銀行會社ノ如ク一般別待遇ノ外営業敬業税ニ該當スル特別所得税ヲ課スル

國ニ對シテ本邦カ單ニ所得稅ヲ免除スルニ過キストセハ佛國ハ之ニ應スル能ハス故ニ本協定ニ依リ全體ノ利益ヲ收メントセハ我立法ニモ適當ノ變更ヲ要ス

銀行、會社ノ所得稅若クハ收益稅ニ關シテハ船舶ノ如ク簡單ナラス然レトモ二國間相互協定ノ方針ヲ以テセハ專門委員會ノ立案ヲ交渉ノ基礎トスルニ何等ノ困難ヲ感セサルヘシ

唯運稅防止ニ關スル相互援助ニ關シテハ遠隔ノ地ニ在ル本邦ハ協定ニ應スルコト多少ノ困難アルヘシ

殊ニ稅額査定ノ材料ニ關スル相互通報共助ノ一項ハ到底容認シ難カル可シ但シ代理徵收ノ相互援助ハ本邦モ協定ニ加フルヲ得可シ何レニセヨ一般的協定ニアラスシテ相互協定ナル以上ハ委員會ノ決議ヲ

通過セシムニ何等ノ不便無シト信ス

是ヨリ各項ニ亘リ其詳細ヲ述フ可シ

第一章　本會設置ノ由來

國際二重課稅問題及脫稅防止問題カ各々一九二〇年或ハ其以後及一九二二年「ゼノア」會議ニ於テ初メテ提起セラレテヨリ國際聯盟財政委員會ニ其研究ヲ委ネラルルニ至リシ經緯並ニ同委員會カ本問題ヲ研究ノ結果一九二一年ヨリ一九二二年ニ亘リ Sir Josiah Stamp ノ如經濟學者ヲシテ理論上ノ討究ヲ行ハシメ次テ其ニ具體的ナル調査ヲ行ハシムル目的ヲ以テ英、佛、伊、和蘭、瑞西及チエコスロバキア七ケ國稅務當局者ヨリ成ル一委員會ヲ任命シ該委員會カ一九二三年六月ヨリ一九二五年二月ニ亘リ五回ノ會合ヲ開キテ詳細ニ調査ヲ遂ケシタル結果一九二五年二月六日總會決議トシテ執ルヘキ原則ニ關スル決議（附屬書F二一二）ヲ作成

シテ臨時財政委員會ニ提出スルニ至リシ迄ノ經過ノ詳細ニ關シテハ

茲ニ敍述ヲ省略ス

本委員會カ召集セラルルニ至リシハ石七ケ國專門家委員會ノ覆議財政委員會ニ對スル報告中

「本委員會ハ財政委員會カ更ニ廣汎ナル基礎ノ上ニ新ナル專門委員會ヲ召集セラレンコトヲ希望ス該新委員會ニハ本委員會ニ於ケルヨリモ多數ノ國ノ代表者ヲ列席セシムヘシ蓋本委員會從來ノ會合ニ於テ或ハ其國際經濟上重要ナル地位ヲ占ムルノ故ヲ以テ或ハ其法制ノ特異ナルノ故ヲ以テ其意見ヲ求メタル諸國專門家ノ協力ハ本委員會ノ研究ニ多大ノ寄與ヲ爲セルモノアレハナリ次ニ該新委員會ニ付託スヘキ審議ノ範圍ハ本委員會ノソレト異ナラシメ本委

員會カ茲ニ提出スル原則ニ對シ更ニ討究ヲ行ヒ進ンテ此基礎ノ上ニ國際協定案ヲ作成スルノ可能性アリヤ否ヤヲ研究セシムルヲ要ス右研究ノ結果ハ本問題ニ關シ開カルヘキ國際會議ニ議題ヲ提供スル事トナルヘシ尤モ該國際會議ノ召集ハ新委員會ノ作成スヘキ國際協定案カ各國ニ於テ慎重ニ研究セラレ各國與論カ本問題ヲ充分了解シタル後始メテ行ハルヘキハ勿論ナリ」

トアルニ基クモノナリ

贈賄防止委員會ハ一九二五年六月ノ會議ニ際シ右專門委員會ニ報告シ理事會ハ六月十一日新專門委員會設置ヲ決定シタリ

於是七月七日臨時理事會ハ事務總長ノ名ヲ以テ第記委員會ニ代表者ヲ列席セシメタル英、佛、白、蘇、和、瑞西、チエコスロバキア七

ケ國ノ外本邦獨逸、波蘭、アルゼンチン、ヴエネヅラ及米國ノ六ケ國政府ニ對シ新委員會ニ列席スヘキ專門家ノ任命ヲ求メタリ

該招請書中新委員會ノ議ニ付スヘキ事項トシテ

「新委員會ハ審議ノ基礎トシテ前專門委員會ノ決議セル原則ヲ採リ（該基礎ノ上ニ）廣汎ナル國際會議ノ議題タラシムヘキ國際協約案ノ作成可能ナリヤ否ヤヲ研究スルモノトス」

ト述ヘラレタリ

右ノ招請ニ接セル各國政府ハ米國ヲ除クノ外夫々專門家ノ任命ヲ通知セルヲ以テ新委員會ハ本年五月十七日瑞西聯邦ニ召集セラレタリ

第二章　列席ノ顧問

各国顧問ニ依リ任命セラレタル左記十三名ノ発言ハ五月十七日審査

日本帝国ヲ	代表	主税局長
Prof. d'Aroma	伊太利	主税局長
M. Hans Blau	墺国	直接税局長
M. Boeduge	白耳義	直接税局長
M. Clavier	仏蘭西	主税局長
M. Damste	和蘭	直接税局次長
Sir Percy Thompson	英国	大蔵省局長
Dr. Valnicek	チエツコスロバキア	

以上前委員會参加員

Dr. Feo	ヴエネヅエラ
Dr. Dorn	獨逸　大藏省法律課長

Dr. Oria	日本
M. von der Waals	アルゼンチン　陸大藏次官
Prof. Zaleski	瑞國　殖民省局長
	波蘭　ポツナン大學教授

以上新委員

御尋問理事會ハ本問題ニ關シ從來聯盟ガ政府間會議ノ開催ニ當リシ多大ノ勞力ヲ費ヘ殊ニ昨一九二五年十月「ブラツセル」ニ開カレタル大會ニ於テ電氣學會ノ作成セル原則（I、二一二）ニ基ヒテナル報告ヲ加ヘタル臨時國際連盟會議所ニ對シ陪席ノ榮誉ヲ以テ

代表者派遣方ヲ勧誘セル結果同會議所ハ左記両氏ヲ派遣シテ本會合ニ出席セシメタリ

M. Robert Julliard　　國際商業會議所

二重課稅問題委員會議員

M. George O. May　　國際商業會議所　　重役

ジエネバ Comptoire d'Escompte

米國々内委員會委員

証書 Price Waterhouse　　會社代表社員

國際聯盟交通社委員會モ亦其年來主張シ居レル結論（紙上及海用）二重課稅防止問題ニ關スル意見ヲ別途スル爲本委員會ノ承認ヲ得テ第五日目ノ會議ニ左記諸氏ヲ出席セシメタリ

11

毛村陸大佐	陸海交通委員會議長
M. Cleminson	英國海軍武官補佐官
M. Palanca	伊太利中央遞信會社長
M. Weintrenner	ケニヒーブ商業會議所長

12

第三章　議事大要

第一節　前專門委員會ノ決定セル原則ノ討議

本委員會ハ五月十七日午前開會十三名ノ委員全部出席セリ

先ツ聯盟財政經濟ノ委員會事務總長 Sir Arthur Salter ヨリ開會ノ挨拶ヲ受ケ本問題ノ性質及從來ノ沿革ノ大要ニ關スル說明アリ次テ議長トシテ前委員會議長タリシ伊太利代表「グロマ」氏ヲ滿場一致推薦シ討議ヲ開始ス

各員ノ自由ナル討議ニ便ナラシムル爲本會議ハ總テ非公開會議トス

既ニ聯盟當局カ本委員會ノ審議事項トシテ定メタル所ニヨリ本委員會ハ前專門委員會ノ決議セル原則（P二一二）ヲ基礎トシテ研究ヲ進ムルノ方針ヲ決シ先ツ該原則ノ逐條審議ヲ開始セリ

14

第七　二重課稅

先ツ議長ヨリ商委員會ノ決定セル原則卽特別所得稅（Schedular taxes）ハ所在地主義ニ依リ一般（人的）所得稅（General taxes）ハ所得者住所地主義ニヨリ課稅スルノ方針ニ關スル說明アリ獨逸委員ヨリ若干ノ質問ヘハ獨逸ニ於テハ一般所得ノ上ニ特別所得稅卽チ所得者ノ住所如何ヲ問ハス課稅スル法制ナトル所アリト述ヘ白國委員之ニ商シ斯ル場合必要アラハ當事國相互間ノ條約ニ依リ自由ニ特別規定ヲ設ケ得ヘシト說明ス

一、特別所得稅 ―收益稅―

特別所得稅ニ關シテハ原案通收益ノ生スル源泉ノ所在國ニ於テ課稅スルノ原則承認セラル

A、不動產收益 ―原案通該不動產所在國ニ於テ課スルモノトス

B、農業收益 ―右同樣原案ニ異議ナシ

C、商業收益 ―原案通リ收益發生地所在國ニ於テ課稅スルノ原則ヲ承認ス尙原案ハ現行及保險會社收益ノ課稅ニ關シ項ヲ分チテ規定セルモ之ハ原則ヲ例示スルモノニ過キサレハ本文ヨリ除キ船舶所得ニ對シ本店所在地國ニ於テ課稅スル規定ノミ右原則ニ對スル例外トシテ一項ヲ設クルコトトセルモ從來ノ原則ヲ變更スルモノ

ニ非ス尚航空業所得課稅問題モ起レル爲終局的ノ決定ヲ次回ニ讓レリ

D、擔保額什錢額

原案通擔保ノ目的トナレル不動產ノ所在國ニ於テ課稅スルノ原則ヲ採用ス

E、賣役報酬

原案通支拂ヲ行フ法人ノ住所所在地國ニ於テ課稅スルニ決ス

F、勸參所得

原案通勸務ノ場所所在國ニ於テ課稅スル事ニ決ス但シ外國ニ在勤スル官吏ノ俸給ハ本國ニ於テ課稅スル事ト定ム

G、有價證券收入、預金利子、配當所得

17

原案カ債務者住所國ニ於テ課稅スルノ原則ヲ採用セル理由ニ關シ
獨逸委員ヨリ質問アリ
白國委員之ニ答ヘ本項ハ被授權國トノ利害背反スル問題
トシテ決定困難ナリシモ妥協ノ結果斯ク決セルモノニシテ且脫稅
防止上ヨリ見ルモ債權者住所國主義ニ從ハルヘシト說明シ（原案通可決旦シ）當事國
間ノ協定ニ依リ債權者住所國ニ於テ一部ノ課稅ヲ行ヒ得ヘキ餘地
ヲ存セシムルコト原案通リトス
會社ノ配當ニ關シテハ一項ヲ設ケ且會社ノ住所（domicile）
ハ事業經營ノ中心地トスヘキ旨ヲ定ム
日、其他ノ債權ヨリ生スル所得及年金等
原案カ債權者住所國課稅主義ヲトレルハ前項Gノ原則ト矛盾セス

18

ヤ且Gノ列擧事項ハスヘテノ有價證券ヲ網羅セストノ獨逸委員ノ意見アリ國際商業會議所代表者Julyard　又本項全部削除ヲ唱ヘタルモ舊委員側ヨリ本項ハ前項カ賃務者住所地主義ヲ採レルニ付之トノ均衡上カクセルモノニシテ前項ト相反スル事却ツテ必要ナリトノ說明アリ原案通決定ス

二、人的所得稅（一般所得稅）

原案ニハ

(1) 一般所得稅ハ原則トシテ所得者住所國ニ於テ課稅スヘキコトヲ定メ

(2) 但シ不動産ヨリ生スル所得、農工、商業ヨリ生スル所得（一般當テ嵌ク）ニ關シ該所得ノ發生スル國ニ於テ一般所得稅ヲ納セントスル時ハ重複課稅ヲ避クル爲關係國ニ協定ヲ行フヘシ」トアル處此ノ點ニ關シ被投資國タル「アルゼンチン」「ヴエネズエラ」等ノ委員ヨリ被投資國ノ立場ヨリスル主張アリ其要點ハ右第二項ニ附加シテ該規定ハ實際的被投資國ノ利益ノ爲ニスル旨ヲ明記シ且第二項ヨリ除カレタル配當所得ニ關シテモ協定ニヨリ所得者住所

國際殺主義ヲ排除スルヲ書シメントスルニアリ

翌之爽、邦委員等ハ資本ニ對スル課稅ハ後進國ノ投資誘引力ヲ減殺シ結局其不利益ニ歸スヘシト論シ議論ノ結果

白眼委員ノ提案ニ依リ第二項中「配當ヲ除キ」ナル文字ニ代ヘ

「但シ株主ノ受クル收入ニ對スル一般的課稅ニ關シテハ總テ住所地主義ニ依ル」一句ヲ加フルニ決ス

(3) 原案ハ右第二項ノ場合ニ於ケル二重課稅防止ノ爲ニ設ルヘキ二箇ノ方法ヲ掲ク

倚邁委員ハ右二方法ニハ何レモ實行上困難ナル點アルヲ以テ第三ノ方法トシテ現在為替約等ニ於テ採用セラレ居ル方法即チ

「協定ニ依リ收入ヲ源泉ニ於テ分割シ兩當事國ハ各其分割部分

ニ譲渡スル」ノ方法ヲ採ルヘキ旨ヲ附加スヘキヲ論シ他ノ委員モ之ニ賛成セルモ決定ヲ後ノ討議ニ譲ル

(四)原案ハ財産所有者ニ於ケル物的譲渡ト所有者住所国ニ於ケル人的譲渡ノ場合ニ依リ二重課税ヲ生スヘキ恐ニ鑑シ低率ノ防止ノ為協定ニ依リ通常ノ方法ヲ離スヘキコトヲ定ム

議長ヨリ本項ニ關シテハ前委員會ニ於テ何等決定セノ特殊方法ヲ見出シ得ス単ニ二重課税ヲ避クル為何等カノ方法ヲ執ルヲ要ストセルモ國際協約案起草ニ際シテハ何等カ具體的規定ヲ為シタシト認フ

21

三、財産税　相續税

原案ハ本税ニ關シテハ一般所得税ニ關スル規定ニ必要ナル變更ヲ加ヘテ採用スヘキヲ定ムコレニ對シテハ「アルゼンチン」委員ヨリ財産所在國課税主義ノ主張アリシモ白耳義委員之ニ反對シ議長ヨリ屬地主義ト屬人主義トノ衝突ハ第二章第四節ノ規定ニ依リ二ケ國間ノ條約ヲ以テ救濟ノ方法アリトノ説明アリ原案通決ス

四、稅法上ノ住所

(ヰ)個人ノ住所

一、一般所得稅

原案ハ所得稅收上ノ住所即トハ納稅者カ通常永久的居住ノ場所ヲ有スル旨ト爲シ數ケ國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ所得ヲ分割シテ各別ニ課稅スルカ又ハ收稅權ヲ關係國間ニ分配スヘシト定ム

議長ヨリ右原案ニ關スル諮問アリ獨逸ノ委員ハ分稅會ニ於テ協定案作成ノ際住所ニ關シ更ニ正確ナル定義ノ決定ヲ希望シ原案通可決

二、相續稅

原案ハ被相續者カ死亡ノ際主トシテ永住ノ意思ヲ住所ト定メタル場

所ノ所在國ヲ相續稅法ノ住所國トシ但右原則ニ從ヒ難キ國ハ從來ノ法例ニ依リ得ヘキモ事實上二重課稅ノ生スル場合ニハ被相續人ノ國籍又ハ主タル營業所ノ所在地ヲ課稅ノ基礎ト爲スカ又ハ他ノ適當方法ヲ講スヘキコトヲ定メタル原案ヲ可決ス

(二)法人ノ住所

原案ハ法人ノ主タル事務所ノ所在國ヲ以テ課稅權ヲ有スルモノトシ若シ該事務所カ事實上ノ事業統轄ノ中心ニ非ルトキハ事業統轄ノ中心ノ所在國ヲ以テ課稅權ヲ有スルコトト定ム

此點ニ關シテモ盛ナル討論アリ「ヴエネヅエラ」ノ委員ハ事業經營ノ中心 Centre of Direction ニ代ヘ事業經營ノ中心 Centre of Administration ノ所在國ヲ以テ課稅權ヲ有スルモノト爲サン事ヲ提言セ

ルモ白耳義委員其ノ他ノ反對アリ殊ニ委員ハ「ヴエネズエラ」委員ノ提言ハ特別所得稅賦課ノ場合ニ於ケル課稅權分配ノ問題トシテ議セラルヘシト主張シ賦課及又人的所得稅賦課ニ關シ住所地所在國主義ノ原則一般的ニ採用セラルル以上「ヴエネズエラ」委員ノ提言ヲ採用シ難キヲ認キ結局原案ヲ採用スルニ決シ唯營業ノ實際的統轄中心ニ Effective Center of Direction ノ所在國ヲ以テ課稅權ヲ有スルモノトス爲メ多少ノ修正ヲ加フルニ決ス

第三 脫稅

本件ニ關スル前專門委員會報告ノ趣旨ハ左ノ如シ

二重課稅防止ノ場合ト異リ脫稅防止ハ二國間ノ條約ヲ以テシテハ因難ナリ國際的條約ヲ要シ且多數ノ國家ノ同盟加入ヲ必要トス然ラ

ラサレハ加入国ノミ不利益ヲ受クル虞アリ

二、以下ニ掲クル防止ノ方法ヲ有効ニ貫徹セン為ニハ先ツ各国具論ヲ敷場シ又各政府ヲシテ諸方法ハ其国具論ニ反セス且自己ノ計私上ニモ必要ナルコトヲ知ラシムルヲ要ス

三、脱税防止ノ方法トシテハ各国間ニ相互主義ノ原則ヲ以テ各相手国ニ住所ヲ有スル法人又ハ個人カ自国ニ有スル左記財産及所得ニ対シ報告ヲ交換スルヲ有効ナリトス

(1) 不動産
(2) 営業付帯權
(3) 商工業企業收益
(4) 動産、預金ヨリ生スル收益及其ノ元本

(5) 勧業收入、重要報國

本項ニ關シテハ既モ既シキ討論行ハレタリ委員先ツ原案ハ國際
協約ニ依ルノ必要ヲ說ケルモ二國間ニ於テ相互ノ行政實驗ノ結力ニ
關スル行政協約ノ可能且有效ナルト及ソレカ國際協約ノ第一歩トシ
テ有益ナル為ヲ說キ白耳義委員亦日和兩國間ニ既ニ不動産ニ關シ右
報道ノ交換サレ居ル狀況ヲ述ヘテ之ニ贊シ右列擧中動産ニ關スル報
道ノ交換ニハ困難アルモ他ノ四項ニ關シテハ困難ナシト述フ翻之瑞
西委員ハ銀行業ノ秘密、資本自由ノ見地ヨリ商工業收益等ニ關スル
報道ノ交換ニ反對ス

英國委員ハ多數ノ國家ヲ包容スル國際協約ノ締結ハ理想ナルモコレ
カ實現ニハ長日月ヲ要スヘケレハソノ第一歩トシテ二國間ノ條約ヲ

既テスルニ徴成ス

「ヴエネズエラ」波爾及「アルゼンチン」海員ハ各最授養園ノ立場ヨリ現在委員ノ見解ニ賛成シ私設ノ交換ニ反対ノ意見ヲ述ヘタルモ今日前委員会ニ

「右諸項ニ亭スル報告ノ交換其他可成機関ノ共助ニ関シテハ既ニ二国間ニ係約ノ約結セラレタルモノ幾多アルニ鑑ミ府県間締結ニ至ル迄ノ間暫様ノ協約ヲ結チ爲シ得ヘシ但シ該交換ノ目的トナル資料ハ既ニ各地政府ノ所持シ居ルモノカ又ハ現在ノ慣改上行ヒ居ル所ニ依リ容易ニ得ラルルモノニ限ル」

トノ極言ノ一節ヲ附加シ二国間協約ノ締結ヲ促進スヘキ事ニ決ス

但シ「アルゼンチン」国事務長鬼代表等ハ右報告ハ結局政府養園ニ対

シテハ事實上一方的事態トナルコト是當家ハ右ノ如キ假約ヲ締結セサル國ニ対シ本ヲ以下スル條項ヲ左スヘシ今ノ場合ヨリ信至然之レニ對シ義務ヲ放セス

30

第二節　三分科會ノ設置、協定草案ノ作成及審議

「分科會ノ設置

第一日乃至第三日及審議ノ官合ニ於テ前記ノ如ク略々前委員會原則ノ系統審議ヲ終レルヲ以テ本委員會ハ修正セラレタル該原則ヲ基礎トシ國際協定又ハ二國間條約ノ基礎タラシメ得ヘキ草案ノ作成ニ着手スル爲會議第三日左記ノ如ク問題ヲ三箇ニ分チ三分科會ヲ設ケ各委員ヲ之ニ分屬セシメタリ

A分科會　二重課稅問題

M. Clavier（白耳義）　Dr. Dorn（獨逸）

Dr. Feo（ヴエネヅエラ）　Sir Percy Thompson（英國）

B分科會　脫稅防止ノ爲ニスル司法上ノ共助問題

M. Damat (羊國) Dr. Oria (アルゼンチン)
M. Valnicek (チェッコ) 森 (日本)

C 分科會 感染防止ノ爲ニスル行政上ノ共助問題

M. Bordage (佛國) M. Blan (瑞西)
M. van der Waals (和蘭) M. Zalesski (波蘭)

各委員ハ第四日及第五日午前中各々別々ニ集合シテ附託問題ノ審議ヲ行ヘル結果第五日及第六日ノ會議ニ各々其ノ作成セル協定案ヲ提出セリ

三 各分科會ノ作成セル協定案

第一A分科會

本分科會ハ二重課稅問題ニ關スル協定案ノ作成ヲ擔當セル力大學左

ノ如キ二國間條約ノ草案ヲ作成セリ（附屬書第二A）

條約案ハ第一條ニ各當事國ニ於テ夫〻一般所得稅及特別所得稅トシテ扱フヘキ租稅ノ名稱ヲ列擧スヘキ規定ヲ設ケ第二條以下ニ於テ今回修正セラレタル前專門委員會原則（F、二一二）ニ基ク規定ヲ掲ケ居レルカ前專門委員會ノ決定セル原則ト異ナル點ハ

イ、特別所得稅（收益稅）中總當金（株主ニ課ス）ニ關シテハ特ニ一項ヲ設ケ該法人ノ事業統轄ノ中心（Center of Management）ノ所在地ヲ以テ課稅權アルモノトス（第四條）

ロ、企業收益ノ課稅ニ關シ關係國ニ分割シテ課稅スル場合ノ標準タルヘキ常設口營業所ニ關シ列擧的說明規定ヲ設ク（第五條）

ハ、海運業所得ニ關スル課稅ハ總テ其營業統轄ノ實際的中心（

(Center of Management) ノ所在スル國ニ於テスルノ原則ヲ定ム（「相互主義ノ原則ニ依リ」ナル字句ヲ除ク）（第五條）

四 俸給、賃銀等ノ所得ハスヘテ勤務ノ場所ノ所在國ニ於テ課スヘキモ若シ該納稅者ノ住所所在國ニ於テ該收入ニ對シ特別所得稅ヲ課セントスルトキハ該特別所得稅ハ勤務國ニ於テ課セラルル稅額丈減額セラルヘシ但シ該減額ハ其特別所得稅額ノ五分ノ四（適當ニ變更シ得）ヲ超ユヘカラス（第七條）

五 外國ニ勤務スル官公吏ノ俸給及年金所得ハ該俸給年金支拂者ノ所在國ニ於テ課稅スルコト（第八條）

六 外國ニ於ケル不動產、動產公社債株式企業等ヨリ生スル所得ニ對シ該外國カ一般所得稅ヲ課スル時ハ其部分丈本國ニ於ケル所

得總額ヲ減ス但シ該減額ハ總額ノ五分ノ四又ハ外國ニ於テ支拂ヘル一般所得稅額ヲ超ユヘカラス（第十條）

第二B分科會

本分科會ハ租稅徵收ニ關スル司法上ノ共助ニ關スル國際協定案ヲ作成セリ其要點ヲ摘記スレハ左ノ如シ

第一條　協約國ハ相互ニ相手國政府ノ直接稅徵收ニ協力スヘキモノトス

第二條　協約國ハ夫々條約ヲ以テ相互間ニ本協約ノ適用ヲ受クヘキ直接稅又ハ直接稅ニ準スヘキ稅目ヲ決定スヘシ

第三條　租稅ノ徵收ハ當事國ノ要求ニ基キテ爲サルヘシ對手國ニ徵收ヲ要求シ得ヘキ直接稅ハ被要求國ノ法律ニ基キ徵收シ得ルモノニ限ル

第四條　原則トシテ徵收ヲ要求シ得ヘキ租稅ハ確定セルモノタルヲ

要スルモ確定額ト勝將來ノ徴收ノ爲ニスル適保的手段ヲ執ル事ヲ
要求シ得

第五條　徴收セラルヘキ租稅ハ被要求國ニ於ケル他ノ債權ニ對シ優
先權ナシ

第六條　徴收ノ要求ハ要求國最高財務官廳ヨリ被要求國最高財務官
廳ニ宛テラルルヲ要シ該要求書ニハ要求國最高財務官
ル執行命令書ヲ添付スヘシ

第七條　被要求國ハ要求國ノ法令ニ規定ナキ手段ニ依リ徴收ヲ行フ
要セス

第八條　但シ要求國ノ領土ニ於リ被要求國ニ於テ之ヲ適當ト認ムレ
ハ自國ノ法令ニ反セサル方法ヲ以テ徴收ヲ行フ事

第九條　緊要求礦ハ要求カ自國ノ主權公安又ハ一般ノ利益ヲ害スト認メタルトキ之ヲ拒絶シ得

第十條　該要求國ノ希望アラハ要求國ハ關係書類及ニ證據ヲ添付スヘシ

第十一條　協約國最高司令官ハ本協約ノ目的ニ從ヒ本協約實施ニ必要ナル取極ヲ行フコトヲ得

該取極ハ特ニ賠償金等ノ支拂方法、期限及執行費用ノ負擔等ニ關スル定メヲ爲スモノトス

（附記一　本協約ニ關スル爭議ハ國際司法裁判所ノ決判ニ附スヘキ旨ノ一項ヲ設クヘシ

第二　C分科會

本分科會ハ脱税防止ニ關スル面委員會報告（F212ニ於ル頁乃至二五頁）及本會議ニ於ケル修正ヲ承認セル後二對問答約ノ基礎タルヘキ諸ヲ作成セルカ其大要左ノ如シ

第一條　租税ノ徴収及收ヲ確實ナラシムル爲メ國當局ハ相互主權ノ侵犯ニ在リ(一)資産ノ交換(二)行政官廳間ノ協力ヲ行フコト

該資産ノ交換ハ具体的ノ場合個々ノ要求ニ從リ爲サルル場合ト一定範圍ノ事項ニ關シ個々ノ要求ヲ待タスシテ爲サルル場合トヲ含ム

第二條　締當事國相互ニ於リ為サルル手段ハ各々其國内法令ニ基クモノニ限ラサルヘシ

第三條　被要求國當事者カ其要求ヲ以テ自國ノ公ノ秩序ニ反スルト認メタルトキハ要求ヲ拒絶スルコトヲ得

第四條　兩當事國財務當局者ハ本條約施行ノ必要ニ應シ相互間ニ直接交渉ヲ爲シ得ルモノトス尙原則トシテ右諸事務ハ特別ナル費用ヲ要スルモノヲ除キ無ヲ以テ爲サルヘキコト

第五條　兩當事國財務當局者ハ稅法ノ改正、財務組織ノ變更等アリタル際直ニ之ヲ通報スヘキコト

第六條　相互ニ報通ヲ交換スヘキ事項ハ左ノ諸項ヲ包含スヘキモノトス

1、不動產ノ價格、收益（實際收益又ハ課稅標準トナレル收益）

抵當權、地上權等ノ有無

2、遺産管理費ハ目的トナレル不動産相續税及登録
3、農工、商企業ノ資本價格、取引額、收益（純收益又ハ課税標
準トナレル收益）
4、有價証券及預金（元金及利子）
5、勤務所得ノ賞與報酬ヲ含ム
6、相續ノ死亡ノ日時、遺産、相續人ノ氏名及住所、相續人取得
分

尙本件分科會ハ右條約案ノ前文中左ノ事項ヲ方記ヤリ
1、條約ノ規定ハ總テ相互的ニシテ兩當事國ノ法制ニ適合スルヲ
要スルコト
2、脱稅ノ問題ト資本ノ海外逃避トノ間ニ區別ヲ設クルヲ要ス

資本逃避ハ各国経済上ノ不安ニ基因シ為替管理ノ如キヲ以テ之ヲ防止スルコト不可能ナリ

3、課税ト二重課税ハ一般ノ表裏ノ如キ関係ニアリト相関テ国税負担ノ公平ナル分配ヲ期セントスルモノナリ

三、各勧定案ノ審議

B分科會ノ作成セル租税徴収ノ司法的共助ニ関スル国際協約案ヲ討議セラレタルカ各国ノ事情ナル部事ハ実施会合ニ譲リソレ迄ノ間ニ充分研究ヲ進ヌルコトトナル次テC分科會ノ作成ニ係ル就税防止ニ関スル二重国際約ノ基礎タルヘキ原則ノ討議ニ入レルカB分科會ノ作成セル案カ具体的ナル国際協約案ノ形式ヲ具備セルニ反シC分科會ノソレハ二国間條約案ニシテ而モ具体的ナル規定ニ非ス原則的

42

事項ニ適キサル點ニ關シ議論生シ本委員會ノ作成スル案相互間ニ程度性質ノ不同アリテ可ナリヤ又本委員會ニ託セラレタル任務ハ原則ノ確立ニ止マラス進ンテ具体的ナル國際協約案ノ作成ニ非スヤ等ノ議論アリシモ問題ノ性質ニ難易アリ今直ニ具体的ナル協約案作成ノ不可能ナルモノアルハ已ムヲ得ス又十一月ニ第二回會合モアルコトナレハ暫ク原案ノ確承認スルコトニ決ス

尚右討議中英國委員ハ問題解決方法トシテ

1、國際協約

2、二國間條約

3、二國間條約ノ同時的締結

ノ三者アルヲ指摘シ英國委員ハ之ニ對シ右三者中英國政府ニトリ實

43

行可能ナルハ第二ノ単純ナル二国間協約アルノミナルコトヲ述ヘタリ且分科會ノ作成セル二國間協約案文ヲ審査セラレタルカ是亦決定ヲ延期シ次回會合迄ノ間ニ充分研究ヲ重ヌルコトトス

第三節　國際商業會議所代表及聯合交渉委員會

代表ノ意見聯盟

國際商業會議所代表者トシテ出席者 Adviser ノ資格ヲ以テ本會ニ列席セル Jullard 氏ハ去二日會議席上其意見ヲ陳述セルカ其要旨ハ所謂資本ノ海外輸出現狀ノ生スル理由ハ重稅迫稅ニ非スシテ寧ロ其國經濟上及社會上ノ不安感實ノ下落、各國ニ於ケル金利ノ差異等カ主タルモノニシテ單ナル立法手段ニ依リ之ヲ防止セントスルハ效ナキノミナラス資本ノ自由ナル移動ヲ阻害シ國際商業ニ影響ヲ與ヘ他方又其爲ニ採ラルル手段ハ秘密ノ營業ノ秘密ヲ破ル虞アル點ヲ挙ヘ本委員會カ脫稅防止手段ヲ研究スルニ當リテハ此點ヲ充分考慮スヘキヲ希望スルニ在リ之ニ對シ議長及白英各委員ヨリ聯委員會モ亦ニ此點ニ留意シ脫稅防止手段カ個人ノ自由營業ノ秘密ヲ侵

害スルコトナキ様充分注意シ居ル旨ヲ答フ

懸案交通專門委員會代表者ハ第五日午後ノ會議ニ出席シテ其意見ヲ述ヘタリ

同委員會ノ希望ニ關シテハ先ツ財政小委員會委員ノ私用アリ同氏ハ先ツ臨時貿易約第二十三條ノ規定ニ關スル一切ノ障碍除去ノ見地ヨリ國際運輸ニ關スル二重課稅防止ノ必要ヲ力説シ次テ

Clemmson 氏ハ更ニ自己ノ說ヲモ加ヘテ詳細ニ其主旨ヲ述ヘタリカ其要旨ハ

總テ海上船舶業所得（一般所得稅及營業所得稅ヲ含ム）ニ對スル課稅ハ該船舶業繼續中心ノ所在國ニ限ルコトヲ爲スヘク既ニ前委員會ハ本件ヲ原則トシテ承認セルヲ以テ本委員會ノ協定案作成ニ當リテモ

45

46

同様該原則ノ採用ヲ希望シ就中諸組織経營中心ノ所在國會社本店所在國船籍所在區等ハ殆ント絶テノ場合一致スルモノナレハ條約案作成ニ際シテハ此點左マテ細密ニ討究スルノ必要ナキ旨ヲ述ヘテ稅法上ノ住所ニ關スル定義ニ關シテハ前委員會案ニ贊成シ又外國船舶所得稅免除ノ規定ハ所得課稅上ノ屬地主義ニモ屬人主義ニモ衝突スルモノニ非サレハ原則ニ對スル例外トセス單ニ一特別規定トシテ定ムヘク又「相互的ノ原則ニ依リ」ナル字句モ國際協約案ニ於テハ之ヲ省略シテ可ナリト述ヘタリ

尚代表者ノ一人ナル「ダニユーブ」河航運會社社長 Weinbrenner 氏ハ右ノ原則ヲ極端ノミナラス國際河川ヲ航行スル航船ニモ適用スヘキヲ主張シコレニ對シ「アルゼンチン」國領殖民地委員等ヨリ自

47

國内ノ河川航行カ殆ント外國船ニ占メラレ居ル國家ノ立場ヨリスル反對論アリ結局本件ニ關シテハ航空ノ問題ト共ニ次回迄討議ヲ延期スルコトニ決ス

尚本討議中英佛委員ヨリ各々英國ハ一九二二年ヨリ佛國ハ一九二六年四月發布セラレタル法律ニ依リ海運船舶所得稅相互的免除ニ關スル原則ヲ定メ爾々交渉進行中ナル迄ヲ報告セリ

第四節　次回會合ノ議題

本年自第十一月至第二他ノ會合ヲ開キ審議ヲ終了スルコトニ決セルカ議題ハ左記議項ヲ次回會議ニ於ケル研究問題トシテ擧ケタリ

一、關稅上ノ住所ニ關スル頭ニ此確ナル決定

二、相續稅

三、二重課稅ノ害ヲ生スル場合ニ關スル研究

四、海上河上相上及空中航路ニ對スル課稅問題

五、外交官及領事官取扱名譽ノ公平取扱ニ關スル規定ノ問題

尙警視局當事者ハ別ニ次回會議ノ議題ヲ作成シテ各委員ニ配付シ次回開會迄ニ各委員ヲシテ之ニ對スル意見ヲ發表セシムル樣方ムヘシト定メタリ

49

附屬書目錄

一、財政委員會ニ提出セル文書報告

二、各分科會ノ作成セル協定案

A、二重課稅防止ニ關スル二國間條約案

B、脫稅防止ノ爲ニスル司法上ノ共助ニ關スル國際協約案

C、脫稅防止ノ爲ニスル行政上ノ共助ニ關スル二國間條約案

三、本會議決議

四、議事錄　第一乃至第八

昭和七年四月

英國所得稅ニ種大要

國稅課調査係